

自分で決めた理由

園長 篠澤 恵理

子どもたちは、幼稚園で飼育しているモルモットやカメに餌をあげたり、ケースを洗ったりして世話をしています。今年度は、飼育物の世話や栽培物の水やりなどについて、数人のグループごとの順番で行う当番制ではなく、子どもたちが自分からやりたいと思うことを決めて行うことにしました。朝の身支度が終わると、それぞれが飼育物の世話や栽培物の水やりの担当表に、自分の名前のマグネットを付けていきます。自主的に飼育物の世話をすることを通して、これまで以上に生き物に対する愛着がもてるようにと願っています。

子どもが自分で何の世話をするかを選ぶ過程では、その子なりに様々なことを思い巡らせています。一緒にいたい友達に合わせる子や、すぐに決められずに時間がかかる子もいます。子どもたちに、選んだ理由を聞いてみると、「モルモットがかわいいから。」「カメを持てるようになったから。」など、様々な理由があることが分かりました。中には、担当人数が偏っていることを心配して、「人数が少なく大変そうだから。」という理由で変えることもありました。周りの状況に応じて、今必要なことを考え直す気持ちが素敵でした。

モルモットの世話には、「水を取り替える。」「餌を足す。」「新聞紙の敷き紙を取り替える。」など、いくつかの役割があります。掃除をする間、モルモットを抱いて別の箱に移すこともあります。怖くて抱き上げられない子もいます。上手に抱ける子に頼む日が続いているうちに、自分もやってみようと思いを奮い立たせることもあります。

ある子は、ケースを洗う間、モルモットを入れる箱に敷く新聞紙を取り替えることを任されました。新聞から糞が落ちないように丸めることや、箱に合わせた大きさの新聞紙を敷くことなど、考えながら手を動かすのは案外難しいことでしたが、この子は、翌日もモルモットの世話を選び、自分から進んで新聞の取り替えを担当していました。一つのことを任されてやり遂げたことは、大きな自信につながったようです。

子どもたちが、今日何を担当するかを決める理由は、毎日少しずつ変化しています。その行動の理由を問いかけていくと、無意識にしていたことであっても、改めて立ち止まって考える機会になり、自分で決めたことをやり遂げられたという満足感が増していくようです。今後も幼稚園では、飼育物の世話に限らず、様々な場面でも子どもたちが自分で考えて決めたことが達成できたと実感できる機会をつくり、子どもたちの自発性を育んでいかれるように支えてまいります。

《今月のめあて》

- 5 歳 児 ・友達と一緒に遊び方を考えたり、遊びに必要な物を工夫して作ったりして遊びを進める楽しさを味わう。
- も り 組 ・友達との関わりの中で、互いに自分の思いを表したり、自分の力を出したりしながら、学級の仲間と気持ちをつなげていく。

今月の歌

☆ しゃぼんだま ☆

1 しゃぼんだま とんだ
やねまでとんだ やねまでとんで
こわれてきえた
かぜ、かぜ ふくな しゃぼんだまとぼそ

2 しゃぼんだま きえた
とぼずにきえた うまれてすぐに
こわれてきえた
かぜ、かぜ ふくな しゃぼんだまとぼそ

